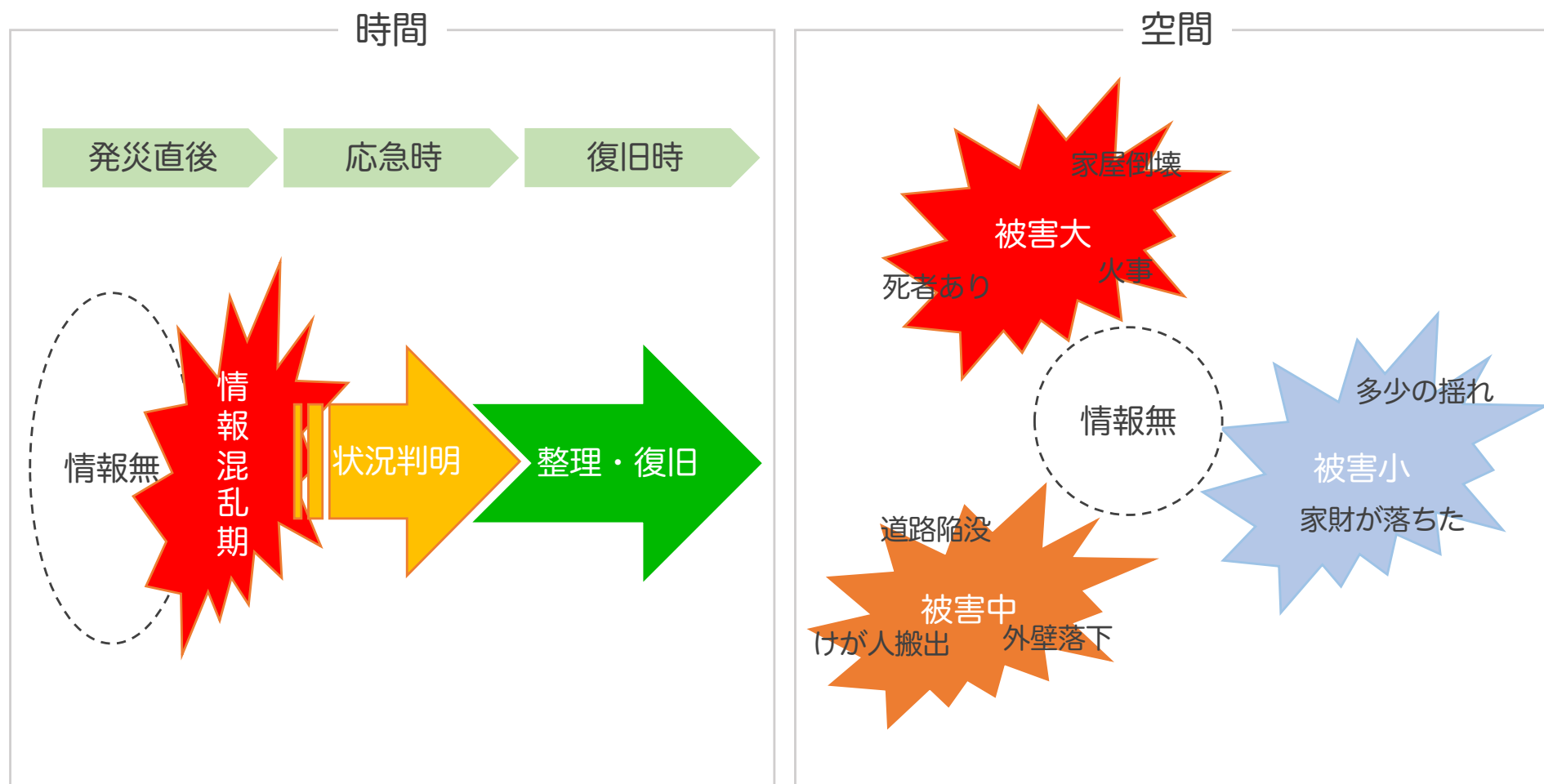




AI防災協議会

- AI技術やSNS等を活用した防災・減災に向けた課題解決に関する研究活動
- AI技術やSNS等を活用した防災・減災に関するシステムの確立・管理
- AI技術やSNS等を活用した防災・減災に関する訓練の計画・実施
- AI技術やSNS等を活用した防災・減災に関する普及啓発活動
- AI技術やSNS等を活用した防災・減災に関する国内外の機関との連絡、調整及び協力
- 前各号に掲げるもののほか、当団体の目的を達成するために必要な事業

災害発生時には情報空白が起きる。これによって被害が広がる。

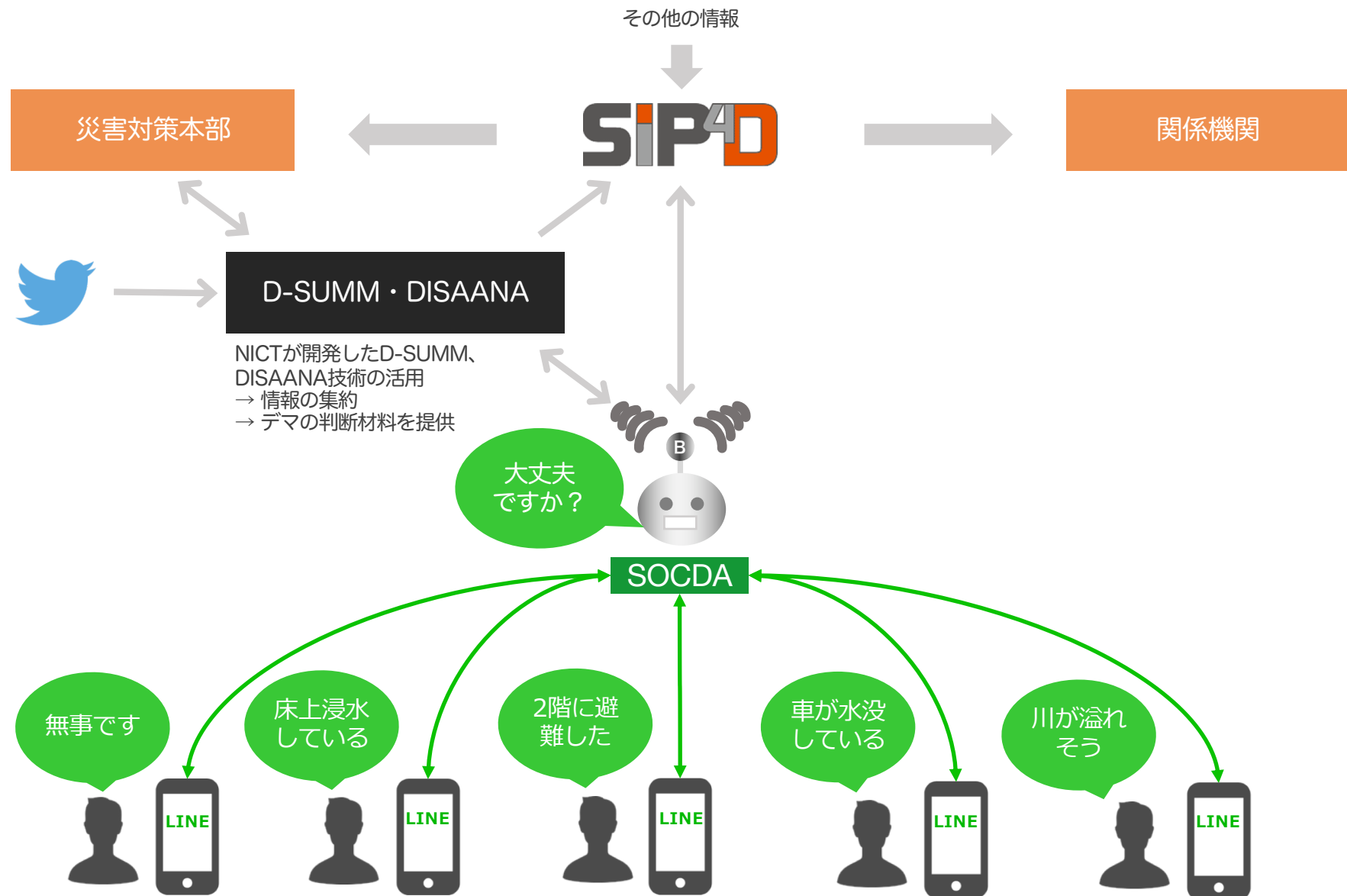


発災直後、固定電話、携帯電話の音声通話は規制されるが、パケット通信は使える。

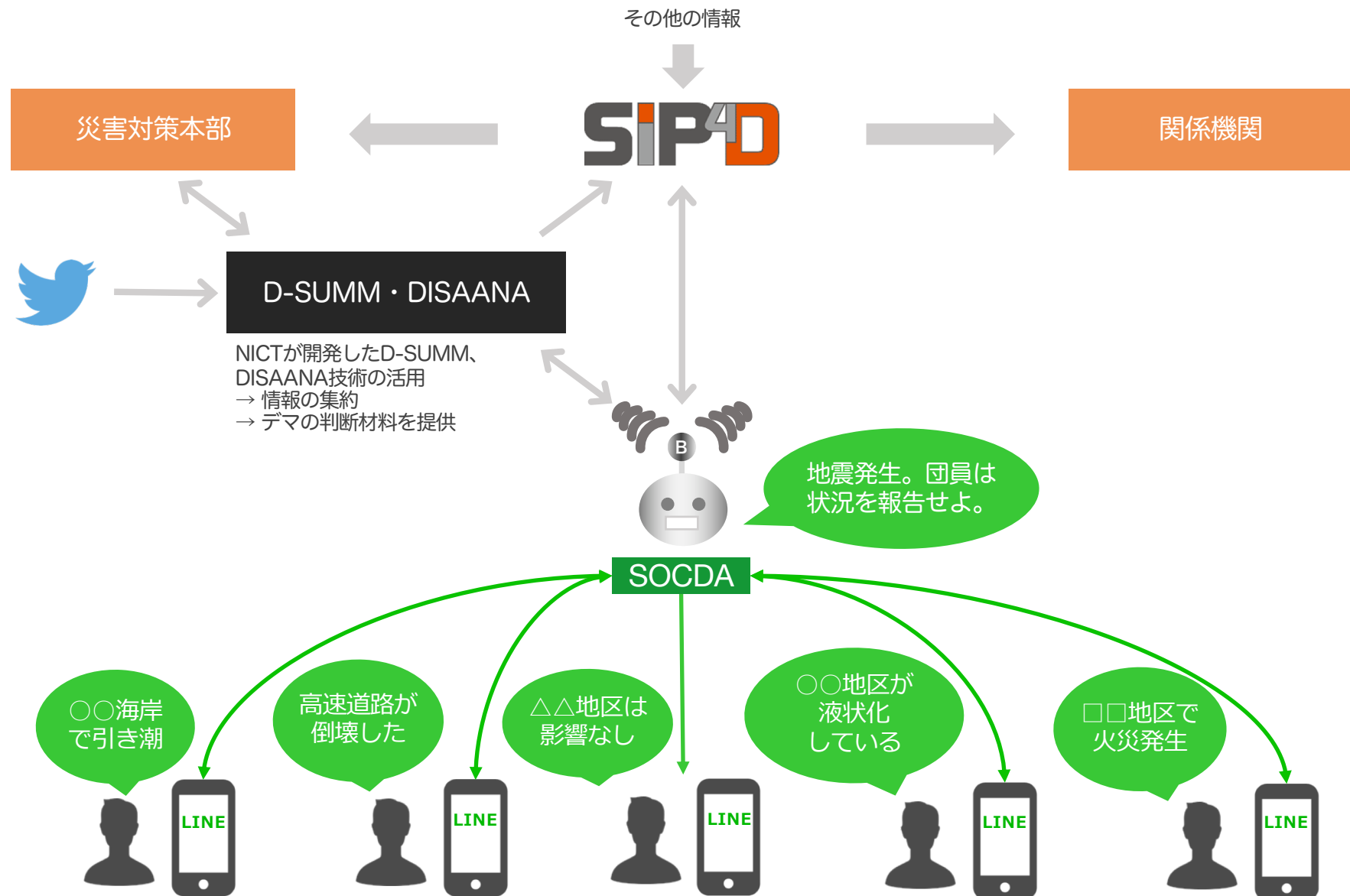
	地震直後	1日後	3日後	1週間後
固定電話	・大量アクセスによる輻輳のため、90%規制が実施され、ほとんど通話できなくなる ・需要家側の固定電話端末の停電により約5割が通話できなくなる。電柱被害等に起因する通話支障は1割以下	・徐々に通信規制率が緩和 ・需要家側の固定電話端末の停電により約5割が通話できないまま	・需要家側の固定電話端末の停電により約5割が通話できないまま	・需要家側の固定電話端末の停電により約5割が通話できないまま
携帯電話	・大量アクセスによる輻輳のため、90%規制が実施され、ほとんど通話できなくなる ・パケット通信では規制は受けにくい、メールは大幅な遅配等が発生する可能性 ・数%～約1割の基地局が停波	・非常用電源の燃料補充等が限定的のため、多くの基地局で機能停止が発生 ・主に停電の影響により約5割の基地局が停波する	・主に停電の影響により約5割の基地局が停波している	・主に停電の影響により約5割の基地局が停波している

出典:中央防災会議 首都直下地震対策検討ワーキンググループ「首都直下地震の被害想定と対策について（最終報告）」

システムイメージ -住民向け-

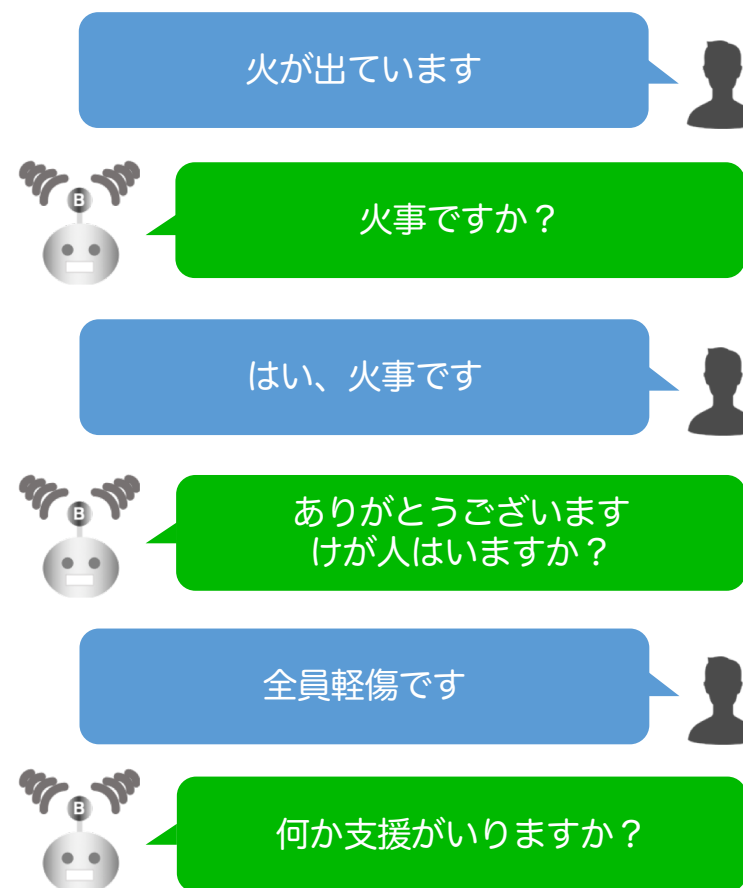
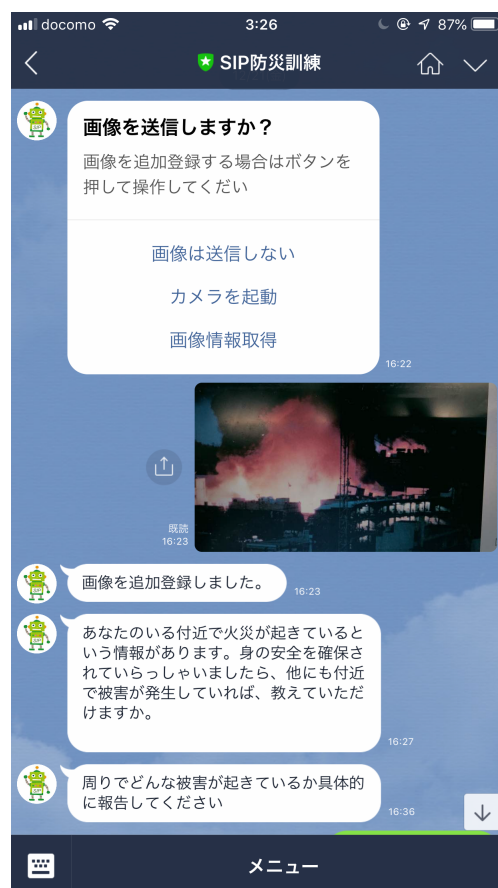
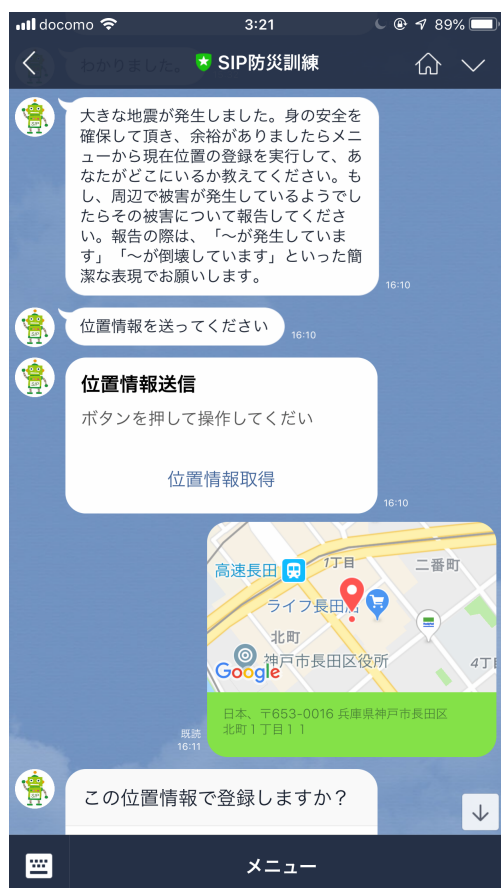


システムイメージ -消防団向け-



コミュニケーション×AIによる情報収集

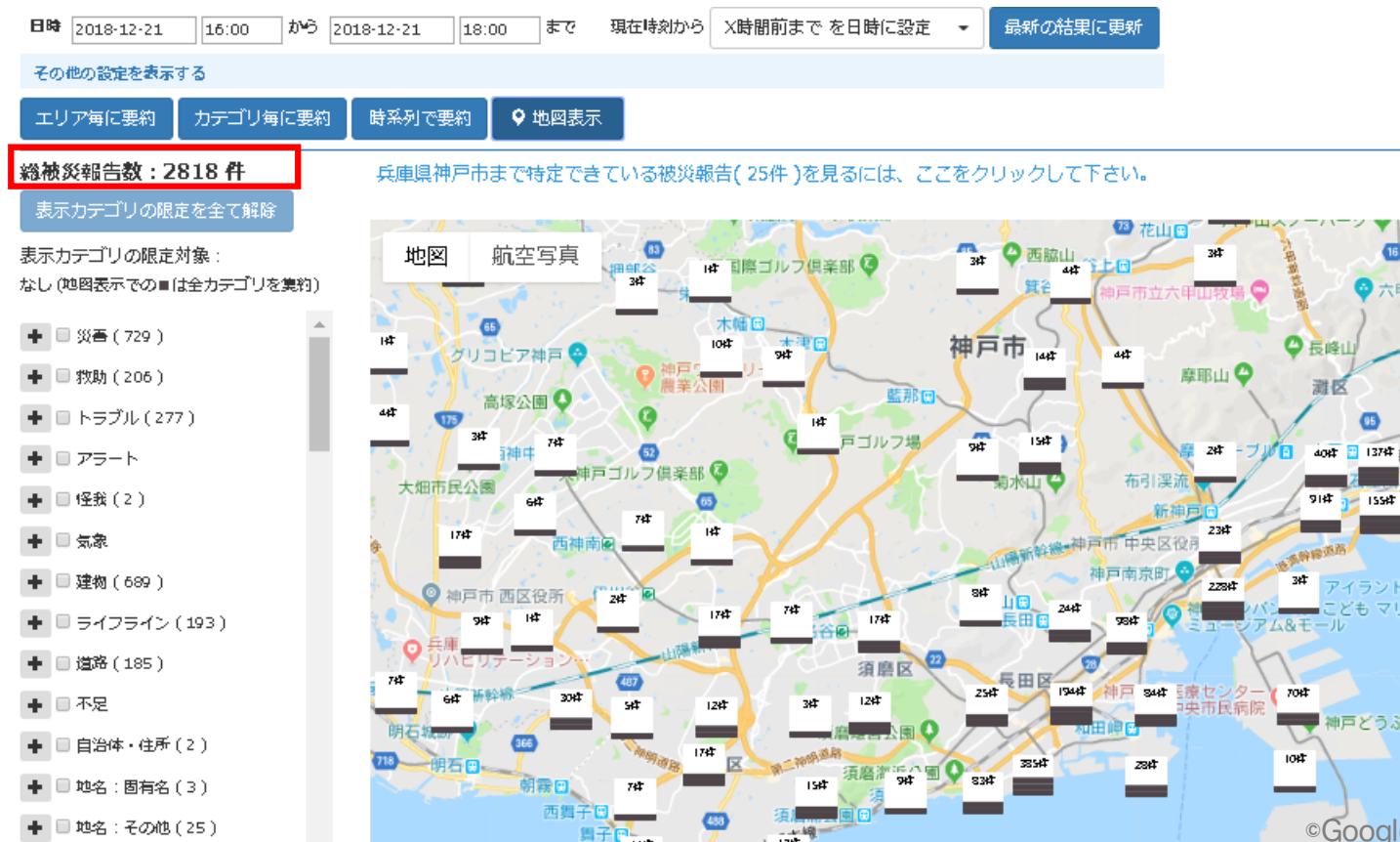
防災チャットボットによる情報収集



出典: 2018年12月21日に実施した神戸市におけるSIPチャットボットの実証実験結果より

情報空白の解消へ

収集した情報をマッピングすることで情報空白地域も明らかに



災害 > 地震 > 地震が発生する



LINEuser

地震が発生しています。(場所:神戸市中央区三宮町一丁目)

2018年12月21日 16:13:31

災害 > 生き埋め > 下敷きになる

被災報告を抽出したツイート

LINEuser

建物が壊れて4たるまさんが下敷きになってます。(場所:神戸市中央区磯上通三丁目)

2018年12月21日 16:13:49

出典: 2018年12月21日に実施した神戸市におけるSIPチャットボットの実証実験結果より
情報の集約・マッピングはNICT「D-SUMM / DISAANA」を利用

拡大表示により具体的な被害箇所も特定可能

兵庫県神戸市中央区
(3)

閉じる 印刷

ページトップに戻る

建物 > 建物・インフラ被害 > JR 三宮駅の倒壊が発生する

被災報告を抽出したツイート



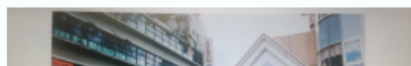
LINEUser

JR三宮駅が倒壊してます。(場所:神戸市中央区
布引町四丁目)

2018年12月21日 16:27:28

道路 > 道路 > 道が閉鎖される

被災報告を抽出したツイート



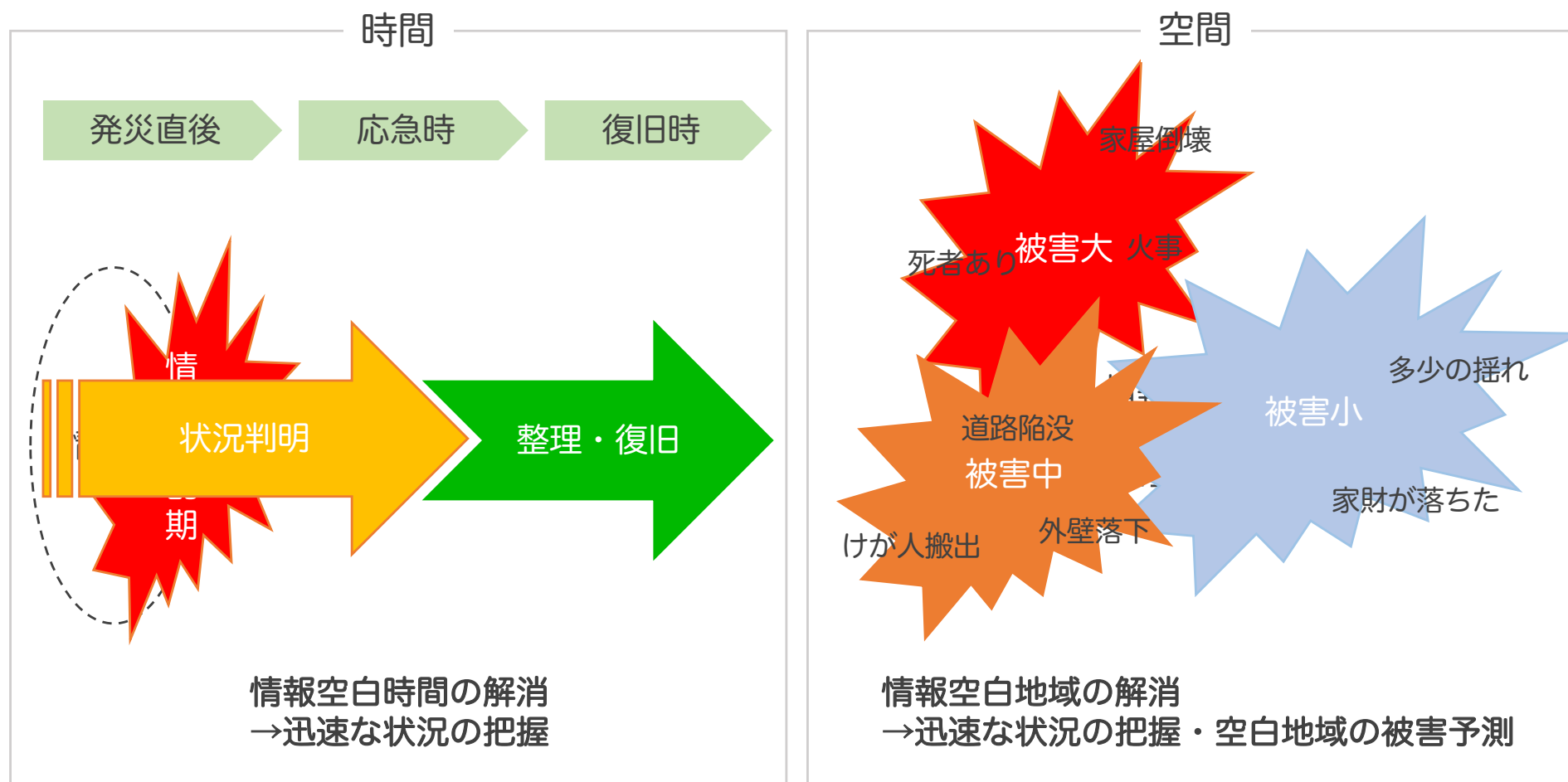
特定できている被災報告(4件)を見るには、ここをクリックして下さい。



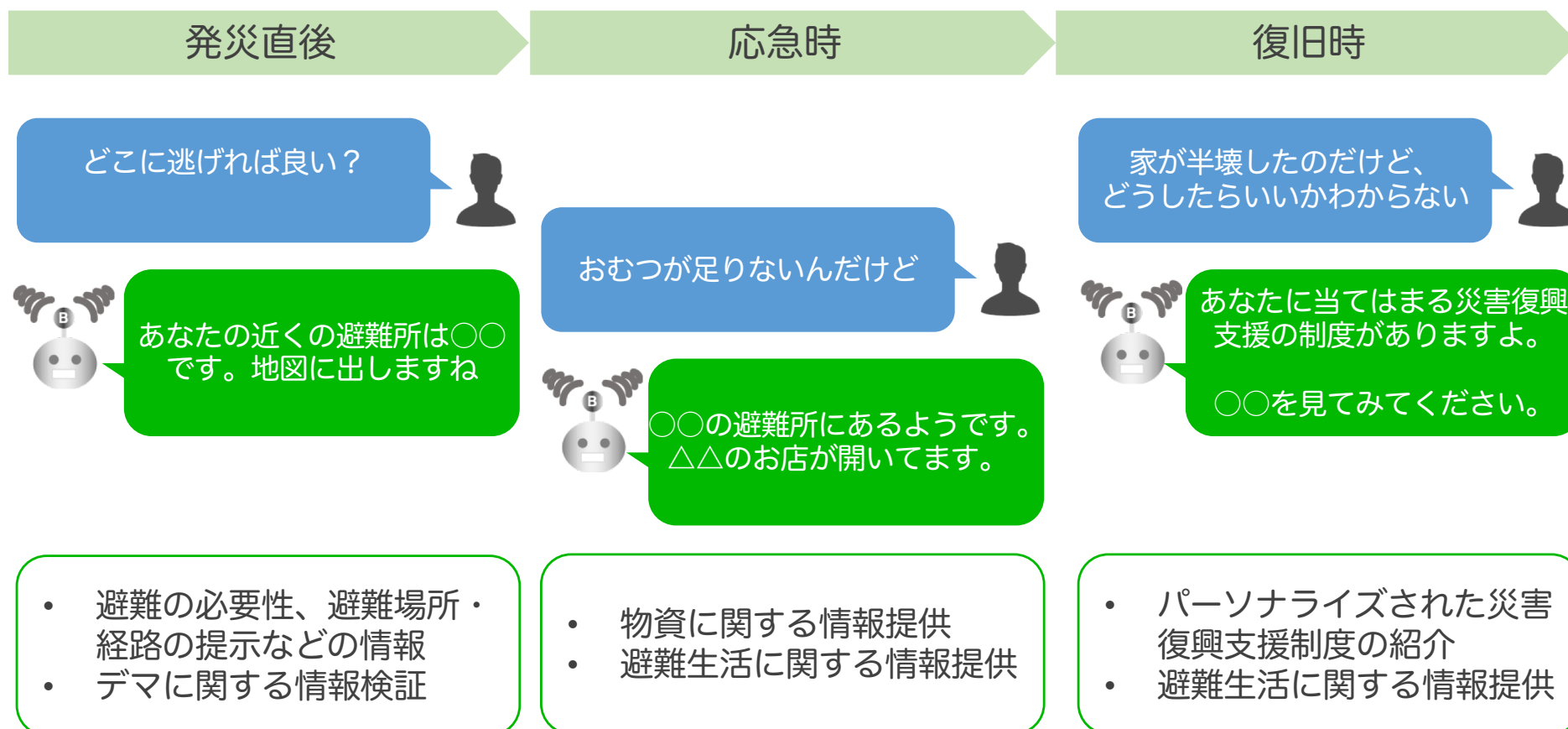
出典: 2018年12月21日に実施した神戸市におけるSIPチャットボットの実証実験結果より
情報の集約・マッピングはNICT「D-SUMM / DISAANA」を利用

情報空白の解消による効果

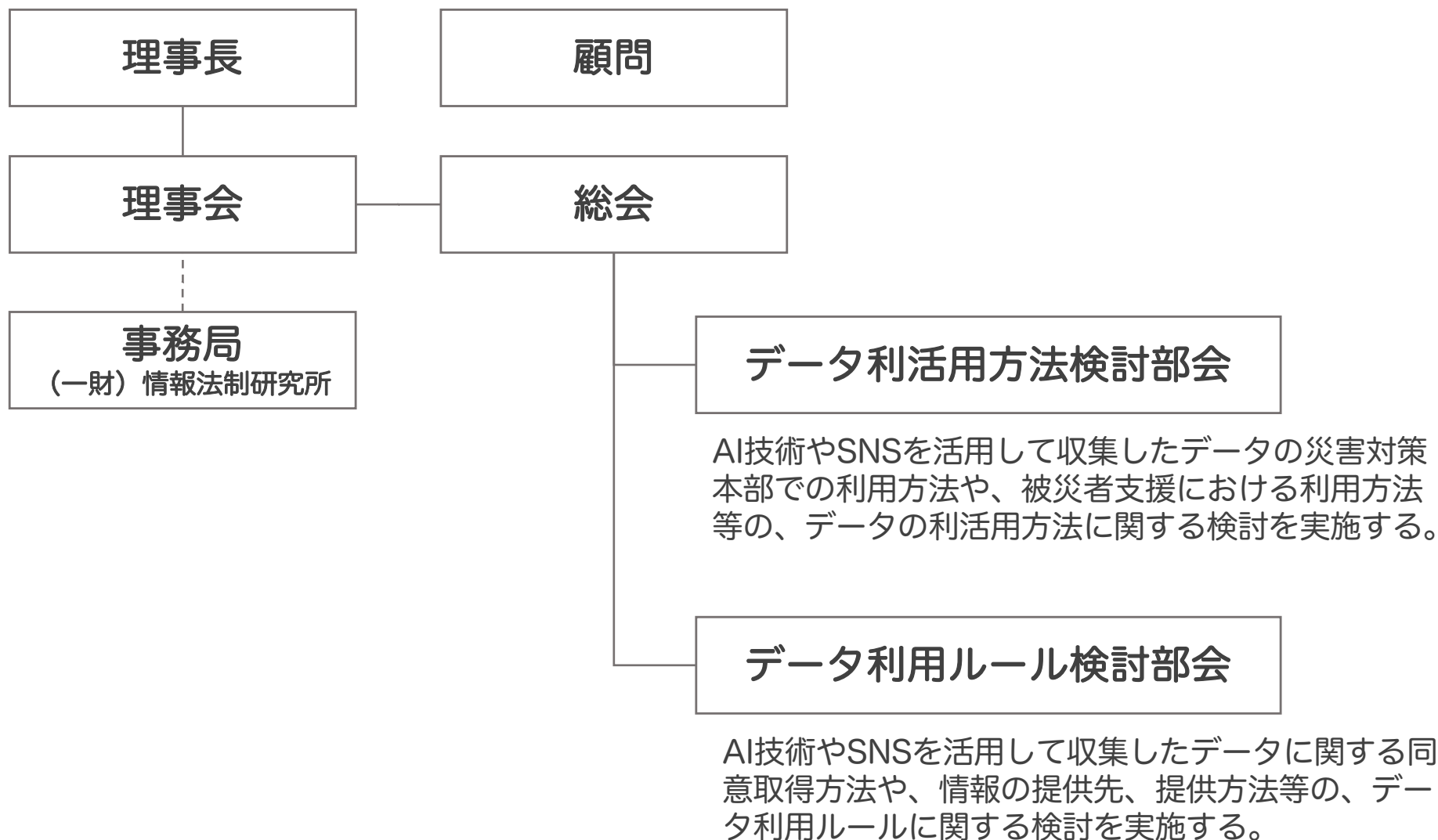
迅速な被害状況の把握と救助活動、迅速な対応は早期復旧へも繋がる



防災チャットボットによる被災者への情報提供



部会の設置について



種別	所属
特別会員	国立研究開発法人情報通信研究機構 耐災害ICT研究センター 国立研究開発法人防災科学技術研究所 Urban Risk Lab, Massachusetts Institute of Technology 大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所
法人会員	株式会社ウェザーニューズ 損害保険ジャパン日本興亜株式会社 S O M P O リスクマネジメント株式会社 東京海上ホールディングス株式会社 ヤフー株式会社 LINE株式会社 ワークスモバイルジャパン株式会社
自治体会員	都道府県：茨城県 神奈川県 三重県 滋賀県 鳥取県 市区町村：北海道森町 茨城県常総市 埼玉県さいたま市 千葉県千葉市 神奈川県鎌倉市 岐阜県関市 京都府京都市 大阪府堺市 兵庫県神戸市 兵庫県伊丹市 広島県尾道市 福岡県福岡市 熊本県熊本市
オブザーバー	内閣官房 内閣府（科学技術・イノベーション担当） 総務省 文部科学省 厚生労働省 経済産業省 国土交通省 一般社団法人 日本民間放送連盟

AI防災協議会役員

*2019年6月18日時点



役職	氏名	所属
顧問	喜連川 優	大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長
顧問	林 春男	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 理事長
理事長	江口 清貴	一般財団法人 情報法制研究所 専務理事 / LINE株式会社 執行役員 全国SNSカウンセリング協議会 代表理事 理事長
副理事長	中谷 昇	ヤフー株式会社 執行役員 政策企画統括本部長
常務理事	臼田 裕一郎	国立研究開発法人 防災科学技術研究所 総合防災情報センター センター長
理事	岡本 正	弁護士、情報法制研究所上席研究員
理事	中尾 公哉	損害保険ジャパン日本興亜株式会社 執行役員 企画開発部長
理事	萩行 正嗣	株式会社ウェザーニューズ AIイノベーションセンター
監事	堀 雅文	一般財団法人 総合研究奨励会 理事・事務局長
事務局長	福島 直央	一般財団法人 情報法制研究所 事務局次長

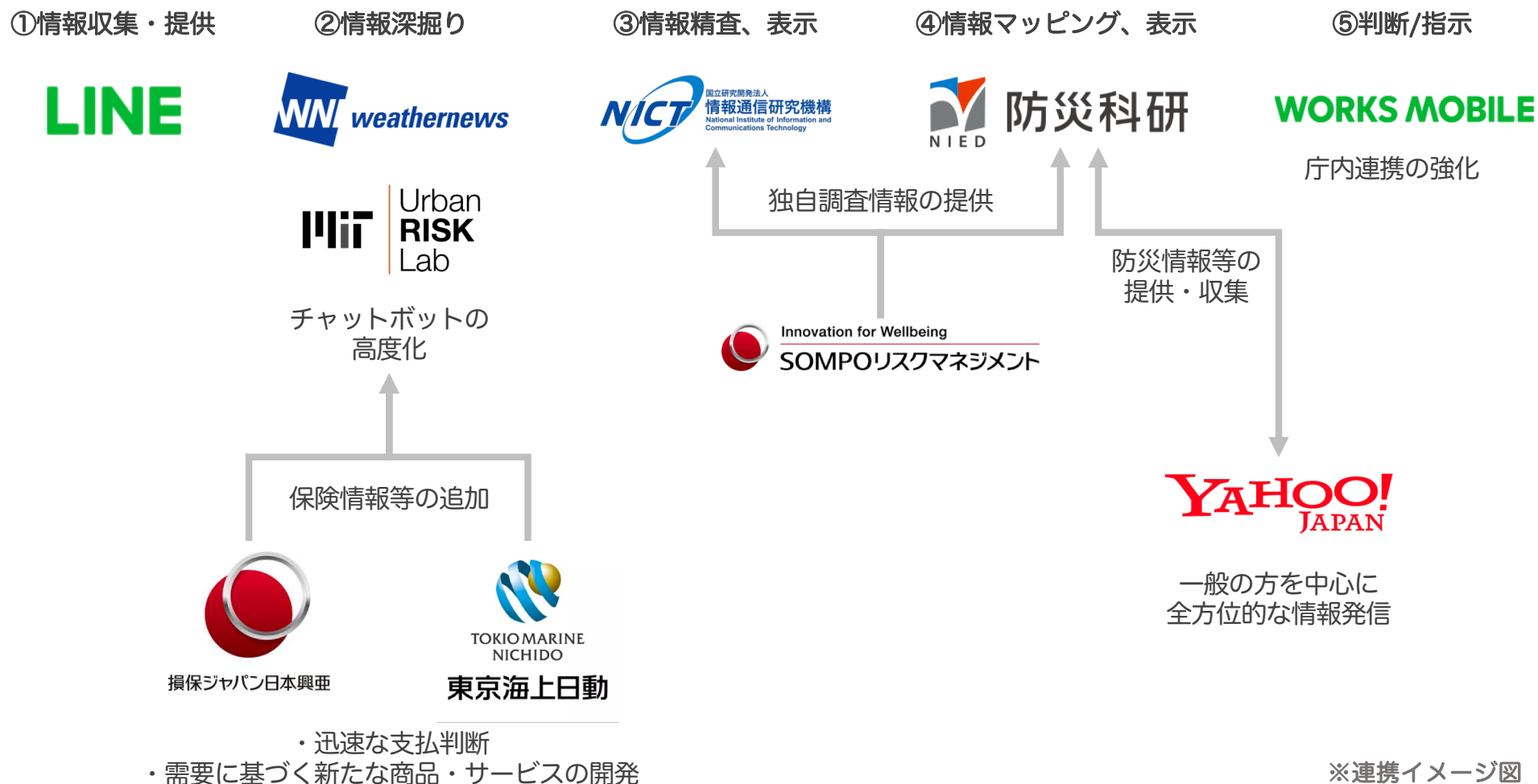


発足 : 2019年6月18日

発足時会員
法人会員 : 7社
特別会員 : 4社
自治体会員 : 18団体
オブザーバー : 8団体

会員間の連携

各社のリソースを持ち寄って連携



各社横断で防災チャットボットの情報を活かす

	地震直後	1～数日後	1週間後以降
防災Chatbotが行うこと	・ 発災直後の30分（特に初動の10分）において、市内の被害状況をざっくりと把握 ・ 市民への避難情報の提供	・ 避難所における情報収集（避難者の情報の整理） ・ 避難所以外のところにいる方の情報収集 ・ 避難者に対する情報提供 ・ 避難者に対して、保険の有無等の確認、一時金の支払い	・ 避難者の状況に合わせた災害復興支援制度の情報提供 ・ 支援手続きをチャットボット上で実施
得られる効果	・ 各機関の指示を被害状況に基づいて、迅速に行うことができる ・ 市民が被害に応じて避難可能な場所を把握、向かうことができる	・ 避難所の避難状況をざっくり把握、物資等の輸送に役立てる ・ 避難者が、必要な情報を、行政に電話で問い合わせることなく入手可能 ⇒ 行政の作業効率化 ・ 被災者が一時金を得られることで復興に向けた道筋を立てられる	・ 住民に対して的確に支援情報を届けられることができる ・ 行政窓口に行くことなく、手続きを行うことが可能 ⇒ 行政の作業効率化

訓練及び実証実験について

自治体会員のフィールドでそれぞれの課題に沿った訓練を実施

実施事項	概要	目的
訓練	実災害を想定したシミュレーションに基づき、システムを提供・稼働する。 対象は災害対応者を想定。必要に応じて市民を含む。	・ AI防災システムの利用可能性の認知向上 ・ AI防災システムに関するニーズ収集
実証実験	実災害での利用を想定し、一定期間、特定地域においてシステムを稼働する。 対象は災害対応者と市民を想定。	・ 具体的な災害における利用状況およびデータの収集 ・ 収集したデータに基づくシステムのブラッシュアップ ・ 実災害時のニーズ収集

活動スケジュールについて

	2019年							2020年	
	6	7	8	9	10	11	12	1	2
協議会	△ 第1回 総会								△ シンポジウム開催 (第一次成果発表)
部会活動			△ データ利活用 (第1回)	(以降2ヶ月に1回程度)					
			△ データルール (第1回)	(以降2ヶ月に1回程度)					
訓練・実証		△ 茨城県 訓練	(夏より市民向け実証@神戸市)				△ 神戸市訓練 (1.17)		
			(各地域における訓練・実証)						



<https://caidr.jp/>